

赤水を希望の象徴に

彫刻家・能島征二さん

日本芸術院会員で水戸市在住の彫刻家、能島征二さんが現在制作しているのは、江戸時代に地理学者として活躍し「日本地図の先駆者」として知られる長久保赤水(1717~1801年)の銅像。高萩市が生んだ偉人の銅像をJR高萩駅前建立しようと、地元で赤水の顕彰活動を続けるメンバーで構成する「銅像建立実行委員会」(皆川敏夫委員長)が、約半年前に能島さんに制作依頼した。能島さんは「『東日本大震災で被災した困難な時代の今、銅像を建てて地元を元気づけたい』との心意気に感動して引き受けた。苦勞して農民から学者になり日本地図を作った赤水。その銅像を人々に勇気を与えるものに、努力すればできるといふ希望のシンボルにしたい」と魂を込める。このほど、石こうによる原型が完成した。

銅像制作、原型が完成

■農民出身の苦学者 (赤水図)を作成したこと 理誌の執筆も行ったほか、赤水は、伊能忠敬(1773)で知られる。若いころに両親を亡くし、「農民疾苦」の上書を藩主に提出して農民いじめの農政を命懸けで改善しようと努力もした。

■人物像知ることから 制作依頼を受け、能島さん

のうじま・せいじ 1941年、東京都生まれ。日展常務理事、日彫会常務理事、県芸術祭美術展覧会会長。日展や日彫展などで作品発表を続け、国内彫刻界、本県芸術界をけん引。自らの創作では、大自然への畏敬の念を込めたようなおどろかすような優美な表情の女性像や母子像が多く、「徳川斉昭・七郎麻呂(慶喜公)像」(水戸市千波町)や「水戸黄門さん像」(同市南町)など町中に建立されている歴史上の偉人の像も多く作っている。

「まず、赤水の人物像を人に知ってほしい」と加えることから始めた。赤水の肖像画をいくつも見比べながら外見のイメージを構築したほか、赤水の業績や交友が書かれた著書を読みあさって内面を想像。赤水の直系の子孫に直接会って話をしたほか、その子孫の骨格までをも制作の参考にしたりした。さまざまな角度からその人物像に迫ることで、見たことのない赤水の顔が徐々に浮かび上がってくる。

■現在は鑄造作業中

依頼から約半年かけて完成した石こうの原型は、主に講義する赤水の侍講の様子を描かれた肖像画「長久保赤水像と家訓」(県立図書館蔵)がベース。書見台の前に置かれ、りりしい雰囲気となった。現在は鑄造作業中で、11月の除幕式で銅像はお披露目される。陶板化した「赤水図」も設置される予定。また、赤水のテーマ曲制作の取り組みも進行中で、その歌詞を募集している。詳しくは「長久保赤水先生銅像建立実行委員会」公式ホームページ <http://www.nagakubo-seki.com>

●粘土の荒付けの制作を行う能島征二さん。水戸市内のアトリエ長久保赤水像の原型

(三次豪)

